



生駒市立鹿ノ台中学校 第9号

校長室だより

令和5年1月16日

3学期のスタートにあたって

【始業式式辞より】

新しい年が明けて10日目になりますが、新しい年の初めにあたり、みなさんが思ったことはどんなことだったでしょうか。

「1年の計は元旦にあり」ということわざがあります。その1年をどうするかという計画を、元旦にしっかり立てた人は、1年間その目標に向かって有意義に過ごせるという意味です。目標をもつということは、毎日の時間を大切に過ごすという意味でも大切なことです。

また、今年の干支(えと)である「うさぎ」にちなんだことわざに、「うさぎの上り坂」というものがあります。うさぎは後ろ足が発達していて前足よりも長いので、坂を登ることが得意であることから、持ち前の力を十分に発揮することができて、物事が滞りなく早く進むことをたとえています。このことわざに象徴されるように、だれにとっても順調な1年になることを期待したいものです。

さて、3学期は、みなさんも知っている通り、大変短い学期です。1月から3月までの3か月ですが、実質的には2か月と少ししかありません。その意味でも、しっかりと目的をもった日々を過ごしてほしいと思います。

そして、3学期はまとめの学期でもあります。

1年生は今まで以上に自分の行動に責任をもち、そのうえで、自分のことだけでなく、周りの人のことも考えて行動できる学年になってほしいと思います。次の4月には新入生を迎え、上級生としてしっかりとリードしてあげられるように準備を進めてください。

2年生は学級集団、学年集団としての力をますます充実させるとともに、最

高学年の3年生になるという意識を少しずつ高めていってほしいと思います。「2年生の3学期は、3年生のゼロ学期」と言われます。来年度のことを具体的にイメージしながら、ぜひ、そのような気持ちで過ごしてください。

3年生は、鹿ノ台中学校生としての最後の学期を迎えます。自分の進路を切り拓くために、最大限の努力を尽くしてください。緊張の日々が続きますが、最高学年にふさわしい雰囲気を保って、卒業を迎えてほしいと思います。

阪神・淡路大震災から28年

平成7年1月17日早朝に発生した阪神・淡路大震災は、阪神・淡路島一帯の都市を直撃し、大被害をもたらしました。「神戸に地震は来ない」と言われた中、6400人以上もの尊い命を奪ったのは、たった15秒間の揺れでした。犠牲者のほとんどが家屋の倒壊や家具などの転倒によるものでした。道路・鉄道の崩壊、ガス・電気・電話といったライフラインの被害とともに、火災も相次ぎました。神戸市での震度7は、「立っていることができず、地面をはわないと動くことができない。また多くの建物で窓ガラス・タイルが破損・落下する」強さです。

その後の生活を大きく変えてしまったこのできごとによって、28年経った今も、深い悲しみを抱えながら生活している人がたくさんいます。そして、そんな状況から懸命に立ち上がる努力を続けている人もいます。その人たちの想いから私たちが「学ぶべきこと」「生かすべきこと」が必ずあるはずで、「震災」という言葉がメディアでも多く登場するこの時期、ぜひ、関心を持って耳を傾けてほしいと思います。

保護者の皆様へ

平素は本校教育にご支援・ご理解を賜り、誠にありがとうございます。

いよいよ3学期がスタートしました。現在、感染症の終息も見通せず、保護者の皆さまにはご心配をおかけしておりますが、今後も感染症対策をしっかりと行いながら、教育活動を継続していきます。保護者の皆様のご協力とご理解をいただきますよう何卒よろしくお願いたします。